科目名	動物飼育実習Ⅰ		
科目区分	1年 必修	単位数	2
担当教員	山美希実 山田由香 門田英敏(学科教員)		
教室番号	学内各実習室 232教室等	開講数	45コマ
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 ・ 当番の時間を守り、どの仕事においても必須な時間管理を身につける ・ 日々の当番を通じて、どの犬猫においても共通する「基本」としての飼養飼育管理ができるようになる。 ・ 集団で飼育飼養管理を行うための情報共有ができるようになる ・ 犬との基礎的かつ適切なコミュニケーション、散歩、運動ができるようになる 個々に動物飼育実習日誌を配布し、記入すること			
講義概要			
1	「犬猫を日々世話すること」の大切さ、難しさ、素晴らしさ		
2	「コミュニケーション」仲間で仕事をする人と個人で仕事をする人の違い		
3	「動物(生命)の仕事を行うための時間管理」学校生活とプライベートと両立		
4	「まずは名前から！！」学校犬猫の名前を覚える		
5	犬が人と調和した生活を営むために必要な「運動」を提供する		
6	犬の散歩		
7	犬の生活環境を整える		
8	猫の給餌と健康管理		
9	排泄と健康管理		
10	掃除洗濯衛生管理		
11	消毒の考え方と実際		
12	整理整頓:犬猫に異物摂食等を健康被害を起こさせないために		
13	皆がその日起こったこと、行わなければならないことを把握できる記録		
14	「記録」:日誌の意義と記入のしかた		
15	ミーティングと情報共有		
16	犬とのコミュニケーション		
17	猫とのコミュニケーション		
18	担当犬に行う投薬、ワクチン接種等の実際と獣医師との関わり方		
19	「わからない時にどうするか？」 仲間、先輩、教員とのコミュニケーション		
20	体重を持って感じる、体温を触ってつかむ、機器を使って測定する		
21	「写真・動画・SNS」魅力を伝える力&日常の中で後から気がつく違いに役立つ！		
22	困ったときに:出来る範囲で積極的に穴を埋めよう！手を差し伸べよう！先輩先生に相談しよう！		
23	「笑う門には福来る」:犬猫との時間を楽しもう！		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 25% 授業参加度: 60% 出席: 15%		シラバスの内容を出題範囲とした筆記試験を行う	
履修上の注意事項	<開講数> 日々の当番、ミーティング等の時間等を積算勘案した時間とし、評価対象の上限を前後期各々45時間とする <授業参加度> 当番への主体的な姿勢やシラバス内容への取り組みを、複数教員の観察と指導、個人日誌、全員が共有する日報やホワイトボード等への記載を通じて評価する。ミーティング中の発言や姿勢も併せて評価対象とする。 ※シラバスの順番は開講順ではなく、順序問わず本授業内で繰り返し行われる		

科目名	業界研究 I		
科目区分	1年 必修	単位数	1
担当教員	山田 門田 山美 荒木 (学科教員)		
教室番号		開講数	15コマ
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
<ul style="list-style-type: none"> ・ペットトリマー、動物看護師およびドッグトレーナーを中心に共通して学ぶこととその意義を理解する ・各専攻の学校での学び、業界の現状と社会に求められる職業的意義に対する理解を深める ・専攻を自らの意思で選択し、2年間学ぶ意志を確認する ・各専攻に応じた特徴やその事例について見聞と理解を深める ・キャリア設計における自己分析、幅広い視点をもてるようになる 			
回/週	講義概要		
1	トリミングの役割と仕事 道具の配布道具 使用方法とお手入れ		
2	ブラッシングの方法とウイックのブラッシング 実習室の使用方法		
3	実習手順とシャンプーについて 各部のカット方法とウイックのカット		
4	トリミング実習担当講師による実演 トリミング実習の評価に関して		
5	動物看護師の仕事と学校での学び 門田		
6	動物に関わる仕事の概要と資格について 門田		
7	ドッグトレーナーのお仕事と学校での学び 山美		
8	動物業界でも必要な基礎学力と一般常識 荒木		
9	自己分析と業界の動向 求められる卒業時の自分 荒木		
10	VN:旭山動物園訪問見学①旭山動物園の飼育展示とその特徴 TR:ドッグサロン見学(TREASURE) DT:飼養管理士スクーリング		
11	VN:旭山動物園訪問見学②飼育展示係による動物園の展示と教育について TR:ドッグサロン見学(wan point、dog.salon.jenny、salon de Ilio) DT:飼養管理士スクーリング		
12	VN:緑の森どうぶつ病院訪問見学 TR:ドッグサロン見学(Naughty Dog) DT:セラピー活動		
13	VN:公立動物愛護施設あにまある訪問見学 TR:プロトリマー実演(Dog Salon mofumofu) DT:OPDES競技会に参加		
14	VN:民間動物保護施設見学訪問 TR:プロトリマー実演(Dog Salon mofumofu) DT:OPDES競技会に参加		
15	学外:企業研究会 実際の企業・動物病院の方々のお話を聞く		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 25%		上記シラバス内容を包括したテーマに関するレポート	
授業参加度: 60%			
出席: 15%			
履修上の注意事項	<授業参加度>各回の内容に応じて授業中の積極的または適切な発言や良好な授業態度を評価する。レポートや小テスト等で評価する場合もある。各回の評価を総合して最終評価を決定する。		

科目名	伴侶動物学		
科目区分	1年 必修	単位数	1
担当教員	小田健郎 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
回/週	講義概要		
1	イヌの進化と家畜化①(オオカミからイヌへ)		
2	イヌの進化と家畜化②(犬種の成り立ちⅠ)		
3	イヌの進化と家畜化③(犬種の成り立ちⅡ)		
4	ネコの進化と家畜化①(リビアヤマネコからイエネコへ)		
5	イヌの発達行動学①(発達行動のステージ)		
6	イヌの発達行動学②(遺伝子による影響、行動特性)		
7	イヌの発達行動学③(環境による影響)		
8	イヌの発達行動学④(トレーニングによる影響)		
9	イヌの感覚(視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)		
10	ネコの発達行動学①(発達行動のステージ)		
11	ネコの発達行動学②(感覚器の発達)		
12	ネコの発達行動学③(摂食行動と捕食行動の発達)		
13	ネコの発達行動学④(遊びの発達)		
14	ネコの感覚(視覚、聴覚、嗅覚、)		
15	総括		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50%	筆記試験	
授業参加度:	35%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることにする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。		

科目名	飼養管理		
科目区分	自由選択 1年トリマー・トレーナー専攻	単位数	2
担当教員	向日奈子（学科教員）		
教室番号		開講数	15
使用教材	愛玩動物飼養管理士2級教本 1巻・2巻 課題プリント等		
授業の内容及び方法・目的 愛玩動物飼養管理士2級の教本と課題報告問題を使いながら最終的には愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指します。 宿題を都度出していきながら知識をつけ、問題の理解・読解力等をつけていきます。			
回/週	講義概要		
1	この授業について:愛玩動物飼養管理士とは？		
2	〈愛玩動物飼養管理士2級第1巻〉 社団法人日本愛玩動物協会の目的・事業 愛玩動物飼養管理士について		
3	人は動物をどのように見てきたのか～日本と西洋の動物観～		
4	近代動物愛護運動の始まり～イギリスに始まる動物愛護運動～ 現代的動物虐待		
5	アニマルライツ・共生という考え方		
6	互いに影響しあう人と動物～関係学とは何か・アニマルアドボカシー 社会貢献する動物達		
7	動物と法律との関係～法令とは～ 動物の愛護及び管理に関する法律 ～法律の制定及び改正の経緯・概要(基本指針まで)～		
8	動物の所有者又は占有者の責務～動物取扱責任者		
9	犬猫等健康安全計画の遵守～負傷動物等の発見者の通報措置		
10	犬及び猫の繁殖制限～展示動物の飼養及び保管に関する基準		
11	実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準～狂犬病予防法		
12	身体障害者補助犬補助犬法～鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律		
13	課題報告問題		
14	〈愛玩動物飼養管理士2級 2巻〉 からだの基本の仕組み～老廃物の排出、異物の撃退と解毒		
15	情報を取り入れる～子どもを産み育てる		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験	40%	記述式試験	
授業参加度	50%		
出席	10%		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・宿題・配布されたプリント等を必ず持ってくる ・2回目、3回目の授業以降宿題を出し、その取り組み方を評価します ※もちろんやってこなかった場合評価は0です ・授業の進行状況に応じて多少前後します ・宿題は必ず回収して確認します。 		

科目名	動物内科看護学		
科目区分	1年 必修	単位数	1
担当教員	門田 英敏 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 ※犬猫チェックシートが適切に使えるようになる 犬猫の基本的な健康チェックができるようになる 犬猫の主要臓器や骨格の名称と機能がわかる ホメオスタシスを理解する 病・症の違いを理解する 基礎的な内科疾患に対する対処法を学ぶ			
回/週	講義概要		
1	動物の健康管理チェックシートから 動物に現れる症状を知る		
2	実践:猫の日常の観察		
3	実践:犬の健康チェック(体温、耳の状況、四肢、目など)		
4	比較解剖:人の骨格と犬の骨格		
5	解剖:犬の骨格、関節と疾患(膝蓋骨脱臼・股関節の異常・椎間板ヘルニア) 体の位置(胸・腹・腰)「側」の理解		
6	主要臓器とその機能 ホメオスタシス 細胞・組織・器官・器官系		
7	神経系・感覚器系の基本と疾患および内科的対処法		
8	循環器および呼吸器系の基本と疾患および内科的対処法		
9	消化器系の基本と疾患および内科的対処法		
10	泌尿器系の基本と疾患および内科的対処法		
11	内分泌系の基本と疾患および内科的対処法		
12	生殖器の基本と疾患および内科的対処法		
13	皮膚の基本と疾患および内科的対処法		
14	感染症とその予防および内科的対処法		
15	よく見る症状と体の反応		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験 : 60 % 授業参加度 : 25 % 出席 : 15 %		筆記試験	
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による		

科目名	動物臨床検査学 I		
科目区分	選択必修 1年動物看護・トレーナー専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏 (学科教員)		
教室番号	臨床検査実習室	開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡を用いた糞便検査ができるようになる ・採尿、尿試験紙による検査ができるようになる ・官能検査の重要性を理解する 			
回/週	講義概要		
1	顕微鏡を知る(部位の名称)		
2	顕微鏡を扱う(ピントを合わせる・倍率を変更する・適切な光量を設定できる)		
3	糞便の官能検査(×1の世界が最も大切)		
4	糞便の顕微鏡検査(標本の作製と直接法による鏡顕)		
5	糞便の顕微鏡検査(直接法の復習と浮遊法)		
6	糞便の顕微鏡検査(犬猫以外)		
7	消化管内寄生虫卵の観察		
8	尿検査(比重・尿試験紙・採尿法)		
9	発情周期、兆候		
10	膣スメア検査		
11	外耳炎と耳垢染色		
12	眼科検査(フロオロセイン染色)		
13	バイタルチェック		
14	総合的な検査		
15	まとめ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験 : 60 % 授業参加度 : 25 % 出席 : 15 %		筆記試験	
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による		

科目名	スタンダード美容理論 I		
科目区分	選択必修 トリマー専攻1年	単位数	1
担当教員	(非常勤講師) 伊藤 愛		
教室番号	223	開講数	15
使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック・犬種図鑑)、配布プリント		
授業の内容及び方法・目的			
グルーミングの作業目的や作業時の道具の種類や用途、グルーミングの歴史や用語を学びます。			
他、犬の生態(歴史、体躯構成など)を知り、様々な犬種のスタンダード(犬種標準)とカット方法を習得します。			
回/週	講義概要		
1	各グルーミング作業の目的と道具の種類と用途①		
2	" ② (ブラッシング・コーミング・ベISING等や足回りなどの		
3	" ③ 部分カットの仕方を含む)		
4	犬種のバラエティを知る		
5	犬の骨格及び犬体名称と体躯構成		
6	グルーミング用語とその意味		
7	犬体の各部位の構造とバリエーション①		
8	" ② (皮膚、被毛、歯)		
9	" ③		
10	グルーミング犬種(ダックスフンド・チワワなど)の各パーツの作り方・カット		
11	シーズー、マルチーズのスタンダード(沿革・原産国・被毛・毛色など)		
12	シーズー、マルチーズのペットクリップ(各部位のカットに仕方・形)		
13	ヨークシャー・テリアのスタンダード(断尾・断耳の歴史も含む)		
14	ヨークシャー・テリアペットクリップ		
15	前期定期試験対策		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	40 %	筆記試験	
授業参加度:	50 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項	授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語・作業や居眠り、提出物の遅れや紛失で減点評価とする。 また、授業に関する積極的な質問や発言は加点評価とする。		

科目名	グルーミング演習		
科目区分	選択必修 ペットトリマー専攻1年	単位数	2
担当教員	(非常勤講師) 伊藤 愛		
教室番号	トリミング実習室	開講数	30
使用教材	トリミング道具、配布プリント テキスト(プードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
始めは実際のモデル犬を使って、犬の基本的な手入れの仕方やその際の道具の使い方、犬への接し方などを学びます。			
グルーミングの基本的な流れや仕方を学んだらプードルのドッグマネキンを使って、プードルのスタンダード(犬種標準)を理解し、それを表現するケネル&ラムクリップとシザーリングを習得します。			
講義概要			
1	道具の正しい使い方		
2	道具の正しい使い分け		
3	グルーミング法:ブラッシング		
4	グルーミング法:コーミング		
5	グルーミング法:爪切り		
6	グルーミング法:クリッピング		
7	モデル犬へのコントロール(接し方・扱い方)		
8	モデル犬のコントロール(保定方法)		
9	各種シザーの用途と正しいシザーワークを習得する		
10	それぞれの犬種のカット方法()		
11	それぞれの犬種のカット法法		
12	それぞれの犬種のカット法法		
13	それぞれの犬種のカット法法		
14	ドッグマネキンの説明、扱い方		
15	ドッグマネキンのブラッシングとコーミング、スリッカーとコームの正しい使い方		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験	: 20 %	課題	
授業参加度	: 70 %	定期試験は課題として、ドッグマネキンのブラッシングの仕上がり进行评估します。	
出席	: 10 %		
履修上の注意事項	全15回(30コマ)の内、13回(26コマ)はモデル犬を使って学びます。 実習室、機材の清掃や消毒の実施 授業参加度は実習において仕上がり、意欲、モデル犬やペアとのコミュニケーションが取れているか、実習室内でのマナー、清掃への取り組みを評価します。		

科目名	トリミング実習 I		
科目区分	1年 必修	単位数	1単位
担当教員	(学科教員)山田 (非常勤講師)伊藤 錢谷 瀧 秋山		
教室番号	トリミング実習室	開講数	23
使用教材	トリミング道具 配布プリント		
授業の内容及び方法・目的			
<p>犬が健康で快適な生活を送るために必要なグルーミング。 実際に様々な犬種に触れながら、犬の事を考え、犬とのコミュニケーションをとります。 その中でトリミングの基本であるベーシックを行なうための第一歩となる道具の使用・犬への対応・シャンプーの基礎を修得します。 また、ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。</p>			
回/週	講義概要		
<p>下記内容を24コマ12回の実習を通して連続的に学びます</p> <p>スリッカー・コーム・爪きり・バリカン・カンシ・トリミングリードなどの道具の使い方</p> <p>爪きり・足裏のバリカン・耳掃除・ブラッシング・シャンプー・タウエリング・コーミング ドライングの方法</p> <p>実習室・機材の清掃や消毒の効果と重要性</p> <p>2コマごとにブリーダー、犬種が変更。犬種・年齢・状態に合わせた対応</p>			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験： 20 % 授業参加度： 70 % 出席： 10 %		筆記試験	
履修上の注意事項	<p>評価の詳細</p> <p>定期試験：100点満点を20%計算</p> <p>授業参加度：各項目・作業における実習中のチェック(道具の使用、犬対応、清掃・消毒、爪きり、足裏バリカン、シャンプー、ドライング、耳掃除、ブラッシング、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。 欠席は0点</p> <p>1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を12回の授業参加点合計が 36～31→70点 30～26→60点 25～21点→50点 20～16→40点 15～13→30点 12～ →20点</p> <p>出席点：出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0</p>		

科目名	トリミング実習 I A		
科目区分	選択必修 1年トリマー専攻	単位数	5
担当教員	山田 (学科教員) 伊藤 銭谷 瀧 秋山 (非常勤講師)		
教室番号	トリミング実習室	開講数	113
使用教材	トリミング道具 配布プリント テキスト(プードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
<p>実際に様々な犬種に触れながら、犬の事を考え、犬とのコミュニケーションをとります。ベーシックの時間配分と完成度、カットの基本・サロンのお客様への接客方法を修得します。</p> <p>ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。</p>			
回/週	講義概要		
下記内容を114コマ57回の実習を通して連続的に学びます			
スリッカー・コーム・爪きり・バリカン・カンシ・トリミングリード・シザーなどの道具の使い方			
爪きり・足裏のバリカン・耳掃除・ブラッシング・シャンプー・タウエリング・コーミング ドライイングの完成度と時間配分			
足回りカット・ひげカット			
実習室・機材の清掃や消毒の実施			
2コマごとにブリーダー、犬種が変更。犬種・年齢・状態に合わせた対応			
サロンお客様の接客とカルテの記入			
ポートフォリオの写真と記入			
リボン作りとリボン付け			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験 : 20 %		実技試験	
授業参加度: 70 %			
出席 : 10 %			
履修上の注意事項	評価の詳細		
	<p>定期試験: 100点満点を20%計算</p> <p>授業参加度: 各項目・作業における実習中のチェック(道具の使用、犬対応、清掃・消毒、爪きり、足裏バリカン、シャンプー、ドライイング、耳掃除、ブラッシング、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。 欠席は0点</p> <p>1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を57回の授業の合計授業参加点</p> <p>171～148→70点 147～124→60点 123～98点→50点 97～74→40点 73～58→30点 57～ →20点</p> <p>出席点: 出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0</p>		

科目名	トレーニング概論		
科目区分	選択必修 1年ドッグトレーナー専攻	単位数	1
担当教員	山美希実 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材	深読み先読みテクニック,JHKC訓練基本マニュアル		
<p>トレーニング業界での常識的な知識やトレーニング用語を習得する 各訓練の目的や重要性を理解し、自身のトレーニングに反映する 犬という動物を理解しトレーニングの理論を学ぶ 犬の行動に対する客観的洞察力を習得</p>			
回	講義概要		
1	競技会での役割(アジリティーとは、ルール、道具、スタッフ役割)		
2	訓練競技会について(家庭犬訓練、課目、種目)		
3	救助犬について		
4	警察犬について		
5	セラピー犬について		
6	フリスビー競技について		
7	各協会について(JKC、PD、JSV、OPDES、JFA)		
8	犬とは(どんな生き物、トレーニングとしつけの違い、犬との関わり方) 訓練DVDを見る		
9	基本訓練について 犬種の特徴とトレーニングについて		
10	ボディランゲージについて(口、舌、耳)		
11	ボディランゲージについて(目、頭部、胸部)		
12	ボディランゲージについて(プレイバウ、逆毛、重心)		
13	ボディランゲージについて(静止画を見て犬の気持ちを読む)		
14	実際に犬同士を観察		
15	総復習		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50 %	筆記試験を実施	
授業参加度:	40 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項			

科目名	トレーニング実習 I		
科目区分	選択必修 1年ドッグトレーナー専攻	単位数	3
担当教員	中谷雅子(非常勤講師)山美希実(学科教員)		
教室番号		開講数	68
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 犬の基本的な扱い、接し方を習得し担当犬との信頼関係を構築する 犬に対する、正しく賞罰の方法を習得 基本訓練を理解し、犬に対して正しい指示出しができるようになる アジリティのルールを理解する コース設営では積極的に動き、迅速に設置が出来るようになる ビギナーコースのコースの攻略方法を考え、実際に正しい指示出しが出来るようになる			
回	講義概要		
1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明		
2	年間のスケジュールの確認、目標設定		
3	トレーニングの目的、犬と接する上での注意点		
4	リードの使い方、結び方、持ち方		
5	コミュニケーションのとり方、トレーニングの手順		
6	指示の出し方、対応の仕方		
7	褒めることについて、犬のモチベーションをあげるための工夫		
8	犬の性格を考えて接することの注意点		
9	2年生の訓練を観察、アジリティのコース設営、基本姿勢を理解する		
10	それぞれの犬とトレーニング(一通りの学校犬とペアを組む)		
11	賞罰について理解する		
12	アジリティの初級のコース		
13	担当犬との目標設定、訓練内容を明確に設定		
14	担当犬と信頼関係の構築		
15	訓練: 基本姿勢の徹底、招呼の徹底、脚側行進 アジリティ: ルールを理解する、ハンドリング、ビギナーコース練習		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	30 %	実技試験を実施する	
授業参加度:	60 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり 訓練ノートを各自用意。毎日の授業の振り返りを行うこと		

記載年月日

2019年4月2日

科目名	トレーニング実習ⅢB		単位数	24
科目区分	必修・選択必修・自由選択			
担当教員	柳生 昌男		開講数	
教室番号				
使用教材				
授業の内容及び方法・目的				
<p>授業を通して、基本的な人とのコミュニケーション能力の向上を図る。 授業を通して、作業のマネジメントにたいする理解を作る。 授業を通して、問題を発見する能力とその問題の解決力の向上を図る。 授業を通して、基本的な社会性を身に付ける。</p>				
回／週	講義概要			
1	5月8日	講師自己紹介・生徒自己紹介・授業の目的、授業の流れ、年間行事予定の確認と対応する授業についての説明	基本的コミュニケーション	
	5月8日		作業の目標の確立	
2	5月17日	フリスビー体験	活動に対するマネジメント	
	5月17日	フリスビー体験	チームワーク	
3	5月24日	トレーニング実習アジリティー	25日26日の競技に対する最終調整	
	5月24日	トレーニング実習訓練	25日26日の競技に対する最終調整	
4	5月31日	犬の健康管理	生き物を扱う基本 犬との信頼関係について	
	5月31日	トレーニングの原理	トレーニングの仕組みを理解する	
5	6月5日	トレーニング実習アジリティー	アジリティーの競技説明 ルール・成績処理・歴史など	
	6月5日	トレーニング実習訓練	訓練競技会の競技説明 競技クラス・犬種団体について・採点について	
6	6月14日	トレーニング実習アジリティー	アジリティーにおける基本的なコントロールの習得	
	6月14日	トレーニング実習訓練	訓練における、基本的なトレーニングの習得	
7	6月21日	トレーニング実習アジリティー	犬と走るドッグスポーツの初歩:ビギナークラス	
	6月21日	トレーニング実習訓練	家庭犬のコミュニケーションについて:犬のしつけを学ぶ	
8	6月28日	トレーニング実習アジリティー	アジリティー競技会への対策	
	6月28日	トレーニング実習訓練	訓練競技会に対する訓練	
9	7月5日	トレーニング実習アジリティー	アジリティーにおける、犬のトレーニング	
	7月5日	トレーニング実習訓練	訓練競技会に対するトレーニングの進め方	
10	7月19日	トレーニング実習アジリティー	アジリティー公式クラスへのトレーニング	
	7月19日	トレーニング実習訓練	犬の訓練性能について	
11	8月23日	トレーニング実習アジリティー	アジリティー人のトレーニング	
	8月23日	トレーニング実習訓練	アイコンタクトと競技会への訓練	
12	8月30日	トレーニング実習アジリティー	アジリティーハンドリングアナライズ	
	8月30日	トレーニング実習訓練	競技会対策	
成績の評価方法			定期試験の方法	
定期試験	1月30日	%	筆記試験を実施する	
授業参加度	2月29日	%	(但し、作業に対するレポートを評価する場合もある)	
出席		10 %		
履修上の注意事項			トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり 訓練ノートを各自用意。毎日の授業の振り返りを行うこと	

科目名	動物形態機能学 I		
科目区分	選択必修 動物看護師専攻1年	単位数	3
担当教員	三浦 希		
教室番号	232または233	開講数	45
使用教材	1.ナビ犬POLOくんとやさしく学ぶ 新 犬と猫のからだのしくみ 2.配布プリント		
授業の内容及び方法・目的 動物看護師の養成に必要な専門基礎分野の1つとして、また、他教科の基礎として不可欠である、解剖生理学や比較解剖学、基礎的な栄養学などの知識を習得する。			
週	講義概要		
1	体の基本構造(細胞)		
2	" (組織)		
3	" (体液、体腔)		
4	1. 脳・脊髄・神経(神経のはたらき、分類)		
5	1. 脳・脊髄・神経(脳)		
6	1. 脳・脊髄・神経(脊髄、神経系、代表的な疾患)		
7	2. 耳・眼(感覚器系について、眼)		
8	2. 耳・眼(聴覚、平衡感覚)		
9	2. 耳・眼(その他の感覚、代表的な疾患)		
10	3. ホルモン(内分泌器)		
11	3. ホルモン(視床下部、下垂体)		
12	3. ホルモン(甲状腺、上皮小体)		
13	3. ホルモン(副腎皮質、その他のホルモン、代表的な疾患)		
14	4. リンパ・免疫		
15	5. 咽喉頭・気管・肺(気道)		
16	5. 咽喉頭・気管・肺(呼吸の仕組み、代表的な疾患)		
17	6. 心臓・血管(心臓)		
18	6. 心臓・血管(血管)		
19	7. 肝臓/8. 膵臓/9. 胃腸 →(消化器系:消化管)		
20	7. 肝臓/8. 膵臓/9. 胃腸 →(消化器系:消化腺、代表的な疾患)		
21	10. 腎臓・膀胱		
22	11. 精巣・陰茎・卵巣・子宮		
23	12. 骨		
成績評価の方法 定期試験: 60% 授業参加度: 35% 出席 : 15%		定期試験の方法 筆記試験(プリント等の持ち込み無し)	
履修上の注意事項	講義時間内に、おおよそ一区切りごとに確認問題を配付する。回答時間を設けた後、適宜指名して回答してもらい、その後解答と解説を行う、もしくは宿題として次の講義で提出してもらい、採点して返却する。講義中の質疑等に加えて学修状況として評価の対象となる。		

科目名	動物看護学概論		
科目区分	選択必修 1年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	竹原 晶代 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
実践的な動物看護を学ぶ前の、その基礎となる概念や、動物看護の場についての理解・果たす役割について学ぶ。			
回/週	講義概要		
1	動物看護師とはどのような職業なのか		
2	動物看護とは・動物看護における倫理綱領・それぞれの看護観		
3	動物看護における倫理綱領(動物福祉、家畜の5つの自由、個別性に配慮した等しい看護)		
4	動物看護における倫理綱領(インフォームドコンセント、知る権利)		
5	動物看護における倫理綱領(個人情報保護、守秘義務、動物愛護法、安楽死)		
6	動物看護における倫理綱領(看護責任、動物看護の継続性)		
7	動物看護における倫理綱領(動物看護の知識・技術の向上、看護サマリー)		
8	動物看護における倫理綱領(動物看護過程、専門的知識・技術を学んでいくためには)		
9	動物看護における倫理綱領(社会からの信頼、人獣共通感染症)		
10	動物看護における倫理綱領(医療廃棄物処理、動物看護職の社会的認知)		
11	QOL、動物看護師から見たインフォームドコンセント、安楽死、ペットロス		
12	動物福祉、あなたならこんな時どうする？		
13	動物看護師の仕事①(動物看護師の役割・仕事、会計業務から診療補助・看護ケア)		
14	動物看護師の仕事②(飼い主とのコミュニケーション、あいさつ、受付業務)		
15	動物看護師の仕事③(電話対応、問診の取り方、備品在庫、カルテ管理)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50 %	筆記試験	
授業参加度:	50 %		
出席 :	0 %		
履修上の注意事項	小テスト、レポート		

科目名	産業動物学		
科目区分	選択必修 1年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田英敏(学科教員)		
教室番号		開講数	23
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
	講義概要		
1	オリエンテーション:産業動物、伴侶動物、野生動物		
2	産業動物と獣医師および法律 家畜伝染病予防法 動物の福祉		
3	馬		
4	牛		
5	豚		
6	ニワトリ		
7	羊 山羊		
8	実習オリエンテーション		
9	実習:飼養管理等酪農作業全般		
10	実習:粗飼料と濃厚飼料		
11	実習:消毒		
12	実習:ミルクングパーラー		
13	実習:搾乳作業		
14	実習:乳牛飼養管理		
15	実習:乳牛の給餌		
16	実習:乳牛の衛生管理		
17	実習:乳牛の放牧		
18	実習:食品加工体験(アイスクリーム)		
19	実習:肉牛牧場見学		
20	実習:食品化工場見学(チーズ)		
21	実習:馬の飼養管理		
22	実習:馬の動物病院		
23	実習:乗馬		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	35%	レポートを課す	
授業参加度:	50%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	新得町レディースファームスクール等で実施する実習を含む		

科目名	動物内科検査学実習		
科目区分	1年 必修	単位数	1
担当教員	中澤 茂樹 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	23
使用教材	㊦動物看護学テキスト(ファームプレス)谷口著 ㊧動物看護の実践6(ファームプレス)		
授業の内容及び方法・目的 犬猫の診療の助手と犬の保定及び基本的な血液生化学検査と尿検査を行なえるようになります。			
回/週	講義概要		
1	一般身体検査、保定法、エリザベスカラー、経口投与 (㊦P16-25、76-88、97-98)		
2	点眼点耳、カルテ英語、心音の聴診(㊦P24、127-128)		
3	注射法、採血(㊦P99-103、80-85、26)		
4	血液検査(㊦P26-41)		
5	静脈内留置針(㊦P65-75)		
6	輸液(㊦P64-65、68-71)		
7	調剤(㊦P92-98)		
8	尿検査、静脈内輸液(㊦P44-47、68-75)		
9	超音波エコー(㊧P123-126)		
10	心電図(㊦P58-61)		
11	レントゲン(㊦P50-57)		
12			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50 %	記述試験	
授業参加度:	50 %		
出席:	%		
履修上の注意事項			

＜ 2019年度 動物看護・ペット学科 シラバス＞

科目名	動物感染症学 I	学年 コース	動物看護師専攻 1年
講師名	一戸 瑞枝	開講コマ数	自由選択15コマ (1単位)
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他 () 【 ほぼ毎回 】 【 時々 】		
成績評価の方法	出席： 0%	授業参加度 (小テスト)： 10%	
	中間試験： 20%	定期試験： 70% (筆記)	
教科目標	ペットの健康の維持と向上を図り、疾病の予防と治療に努める上で、微生物とそれによって引き起こされる感染症について幅広い知識を身につける。 さらに消毒薬の使用法や特性などについて学ぶことにより、感染症の予防に理解を深める。		
講義内容	1	感染と発病	感染症の種類
	2	感染経路	微生物の種類と大きさ
	3	細菌の構造と分類	
	4	細菌感染症	
	5	リケッチアとクラミジア	
	6	マイコプラズマ	スピロヘータ
	7	中間試験	真菌 1
	8	真菌 2	
	9	ウイルスの構造と増殖	
	10	ウイルス感染症	
	11	消毒と滅菌	
	12	消毒薬の特徴と使用法	
	13	滅菌法	
	14	授業内容の復習	
	15	定期試験の準備	
理解度の把握	小テストを毎回実施し、授業の参加度を評価する。 既習内容については、随時学生を指名して復習を重ねる。		
その他	授業時には忘れずに動物看護コアテキスト 3 (動物の疾病と予防および回復) および冊子テキスト (初回授業時に配布) を持参すること。		

科目名	マナー講座		
科目区分	1年 必修	単位数	1
担当教員	奥田 真弓 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 社会人として必要な挨拶、対人スキル、電話対応など一般常識を学び実践できる力を身につける			
回/週	講義概要		
1	オリエンテーション コミュニケーションの意義		
2	勤務の常識 名刺交換		
3	電話対応		
4	仕事の基本「ほう・れん・そう」話し上手 聞き上手		
5	アンガーマネージメントとアクティブな自己表現 上手な頼み方・断り方		
6	ビジネス文書 メール FAXの基本		
7	一般常識 マナー		
8	心のくせと自己PR		
9	サービスマインドとおもてなし 苦情への対応		
10	プレゼンテーションスキル		
11	敬語・接遇用語のまとめ		
12	カウンセリングワーク① 上手な質問と聞き上手		
13	カウンセリングワーク② 予約受付のグループワーク		
14	カウンセリングワーク① ・カウンセリング・提案のグループワーク		
15	まとめと定期試験対策		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験 : 70 % 授業参加度 : 20 % 出席 : 10 %			
履修上の注意事項	<授業参加度> 課題プリントの提出と個別添削、翌週の授業ははじめの確認ミニテスト、演習およびワークへの取り組みチェック ※やむを得ない事情があつて授業に担当犬・担当動物を持ち込む場合は授業の妨げにならないよう配慮すること		

科目名	動物行動学		
科目区分	必修	単位数	1
担当教員	小田健郎(非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 イヌとネコの社会的な行動、維持行動を学ぶ。			
回/週	講義概要		
1	イヌの社会的な行動①(オオカミの社会、野犬の社会)		
2	イヌの社会的な行動②(視覚によるコミュニケーションⅠ)		
3	イヌの社会的な行動③(視覚によるコミュニケーションⅡ)		
4	イヌの社会的な行動④(視覚によるコミュニケーションⅢ)		
5	イヌの社会的な行動⑤(嗅覚によるコミュニケーションⅠ)		
6	イヌの社会的な行動⑥(嗅覚によるコミュニケーションⅡ)		
7	イヌの社会的な行動⑦(音声によるコミュニケーション)		
8	イヌの社会的な行動⑧(触覚によるコミュニケーション)		
9	イヌの社会的な行動⑨(生殖行動Ⅰ)		
10	イヌの社会的な行動⑩(生殖行動Ⅱ)		
11	イヌの社会的な行動⑪(休息行動、摂食行動、飲水行動)		
12	ネコの社会的な行動①(猫の基本、集団でも暮せる理由)		
13	ネコの社会的な行動②(視覚によるコミュニケーション)		
14	ネコの社会的な行動③(嗅覚によるコミュニケーション)		
15	ネコの社会的な行動④(生殖行動)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50%	筆記試験	
授業参加度:	35%		
出席:	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることとする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。		

科目名	飼養管理		
科目区分	自由選択 1年トレーナー・トリマー専攻	単位数	1
担当教員	向日奈子（学科教員）		
教室番号		開講数	8
使用教材	愛玩動物飼養管理士2級教本 1巻・2巻 課題プリント等		
授業の内容及び方法・目的 愛玩動物飼養管理士2級の教本と課題報告問題を使いながら最終的には愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指します。 宿題を都度出していきながら知識をつけ、問題の理解・読解力等をつけていきます。			
回/週	講義概要		
1	P46～P83動物の適正な飼養・管理～環境衛生～血統書 【プリント:動物の飼養管理①、②】		
2	P84～P100犬とはどんな動物か～猫の健康管理 【プリント:動物の飼養管理③、④】		
3	P115～P129うさぎとは～チンチラ 【プリント:動物の飼養管理⑤、⑥】		
4	P130～P156鳥類の飼養管理概論～手乗り鳥として飼養する 【プリント:動物の飼養管理⑥、⑦】		
5	P157～P爬虫類の飼養管理～屋内飼養にする理由		
6	確認問題①（40問）		
7	確認問題③（60問）		
8	確認問題⑤（80問）		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験	40%	記述式試験	
授業参加度	50%		
出席	10%		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・宿題・配布されたプリント等を必ず持つてくること ・毎回の授業で宿題を出し、その取り組み方を評価します ※もちろんやってこなかった場合評価は0です ・授業の進行状況に応じて多少前後します ・宿題は必ず回収して確認します。 		

科目名	犬のしつけ		
科目区分	選択必修 1年ペットトリマー専攻	単位数	1
担当教員	山美 希実 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 家庭内で起こり得る問題を理解し、対処法・アドバイスの仕方を習得。 犬を育てる過程で、仔犬の扱い方や注意点を理解し、問題を未然に防ぐ為の飼育方法を理解すること。 飼い主さんに対してわかりやすくアドバイスできる力をつける			
回/週	講義概要		
1	授業の目的、評価についての説明 しつけの重要性・しつけとトレーニングの違い、注意点		
2	仔犬の成長段階とその特徴		
3	犬を飼うための備え、確認事項、飼う為には何が必要でいくらかかる？		
4	犬を迎えたら(1日の流れ)注意すること、触れ合う際の注意		
5	犬の一般常識確認 犬を飼うための常識(ワクチンは何が必要でいつ、フィラリア、ダニ、発情、妊娠、		
6	パピートレーニング (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
7	トイレトレーニング (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
8	ハウストレーニング、留守番 (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
9	社会化、物を噛む、甘噛み (強化すること、しないこと、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには)		
10	仔犬に対して必要な取り組み(アイコンタクト&呼び戻し、体を触る、ご飯時)		
11	仔犬時からやめさせたいこと(食糞、マウンティング、顔なめ、おねだり、マーキング)		
12	犬の挨拶(犬同士、対人)お散歩の注意点、見られる問題。対応。 首輪、チョーク、ハーネス、ヘッドカラーそれぞれ特徴		
13	吠えの原因は様々。それぞれのパターンを理解して対応を考える		
14	犬種の特性と飼い易さ、どうアドバイスをするか しつけを飼い主さんに指導する。実際に寄せられるしつけ相談対応を考える		
15	実際に寄せられるしつけ相談対応を考える		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60 %	筆記試験を実施	
授業参加度:	30 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項			

科目名	トリミング実習Ⅱ・ⅡA・ⅡB・Ⅱa(ペットトリマー専攻)		
科目区分	必修	単位数	3 (Ⅱ1・ⅡA1・ⅡB1)
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	135
使用教材	トリミング道具 配布プリント テキスト(プードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
常に犬のことを考え、犬とのコミュニケーションを大切にしながら犬の扱い・声かけ、保定法及び犬体コントロールを学びます。トリミング実習Ⅰ及びⅡAで修得したベーシックのスピードUPと完成度を高めていきます。 また犬種ごとのクリップスタイルや毛量・毛質などによるシザーワークを修得します			
講義概要			
1	犬体チェック(皮膚・被毛・耳・目・その他健康状態)		
2	犬とのコミュニケーションと犬体コントロールと保定		
3	道具の使用法とよりベストな使い分け		
4	ベーシック:スピードアップ		
5	ベーシック:完成度		
6	ベーシック:シャンプー・ブローの完成度とスピードアップ		
7	犬種ごとのクリップスタイル		
8	時間配分		
9	受付と接客		
10	カルテ内容の把握と記入		
11	オーダーのイメージと実践		
12	ポートフォリオ(写真と振り返り)		
13	実習室内での気配りとコミュニケーション		
14	リボンつけ		
15	清掃・消毒		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項	評価の詳細		
	授業参加度:各項目・作業における実習中のチェック(道具の使用、犬対応、爪きり、足裏バリカン、ブラッシング、シャンプー、ブロー、スピード、仕上がり、その他)の10項目3点~1点で毎回の授業で評価。 欠席は0点 1日の平均点3~2.1→3 2.09~1.5→2 1.49~1→1 0→0 以上を68回の授業の合計授業参加点 204~175→70点 174~146→60点 145~116点→50点 115~ 87→40点 86~ 68→30点 68~ →20点 出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	トリミング実習Ⅱ		
科目区分	必修 2年動物看護師・ トレーナー専攻	単位数	1
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	23
使用教材	トリミング道具・配布プリント		
授業の内容及び方法・目的 常に犬のことを考え、犬とのコミュニケーションを大切にしながら犬の扱い・声かけ、保定法及び犬体コントロールを学びます。トリミング実習Ⅰ修得したベーシックのスピードUPと完成度を高め限られた時間内でのグルーミングを修得します。			
	講義概要		
1	犬体チェック(皮膚・被毛・耳・目・その他健康状態)		
2	犬とのコミュニケーションと犬体コントロールと保定		
3	道具の使用法		
4	ベーシックの時間と完成度:爪切り		
5	ベーシックの時間と完成度:足裏バリカン		
6	ベーシックの時間と完成度:耳掃除		
7	ベーシックの時間と完成度:シャンプー		
8	ベーシックの時間と完成度:ドライング		
9	犬種ごとの足回りカット		
10	触覚毛カット		
11	受付と接客		
12	カルテ内容の把握と記入		
13	清掃・消毒		
14	実習室内全体への気配り		
15	ペアとのコミュニケーション		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	20 %	実技試験	
授業参加度:	70 %		
出席:	10 %		
履修上の注意事項	評価の詳細		
	授業参加度:各項目・作業における実習中のチェック(道具の使用、犬対応、爪きり、足裏バリカン、シャンプー、ドライング、ブラッシング、スピード、保定、その他)の10項目3点~1点で毎回の授業で評価。欠席は0点		
	1日の平均点3~2.1→3 2.09~1.5→2 1.49~1→1 0→0		
	以上を12回の授業参加点合計が 36~31→70点 30~26→60点 25~21点→50点 20~16→40点 15~13→30点 12~ →20点		
	出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	トリミング実習Ⅱ・ⅡA		
科目区分	必修選択 1年後期動物看護・ トレーナー専攻	単位数	2
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	45
使用教材	トリミング道具・配布プリント		
授業の内容及び方法・目的 常に犬のことを考え、犬とのコミュニケーションを大切にしながら犬の扱い・声かけ、保定法及び犬体コントロールを学びます。トリミング実習Ⅰ修得したベーシックのスピードUPと完成度を高め限られた時間内でのグルーミングを修得します。			
	講義概要		
1	犬体チェック(皮膚・被毛・耳・目・その他健康状態)		
2	犬とのコミュニケーションと犬体コントロールと保定		
3	道具の使用法		
4	ベーシックの時間と完成度:爪切り		
5	ベーシックの時間と完成度:足裏バリカン		
6	ベーシックの時間と完成度:耳掃除		
7	ベーシックの時間と完成度:シャンプー		
8	ベーシックの時間と完成度:ドライング		
9	犬種ごとの足回りカット、触覚毛カット		
10	受付と接客		
11	カルテ内容の把握と記入		
12	ペアとのコミュニケーション		
13	清掃・消毒		
14	パーツごとのカット		
15	一人でのトリミング		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項	評価の詳細 授業参加度:各項目・作業における実習中のチェック(道具の使用、犬対応、爪きり、足裏バリカン、シャンプー、ドライング、ブラッシング、スピード、保定、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。欠席は0点 1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を23回の授業参加点合計が 69～59→70点 58～49→60点 48～39点→50点 38～29→40点 28～24→30点 23～ →20点 出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	動物健康管理 I		
科目区分	選択必修 1年トリマー・トレーナー専	単位数	1
担当教員	佐武 満寿美 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材	プリント その他		
授業の内容及び方法・目的 犬や猫を種とした動物の体を理解する 正常な状態を知り、異常に気づける五感を養う トリマー・トレーナーとして必要な知識を身につける			
講義概要			
1	講義について(内容・ルール等)・自己紹介・動物の体を見してみる(実際の犬)		
2	犬の身体検査をする(実際の犬) TPR・口腔粘膜・股動脈触知ほか		
3	仔犬・仔猫の健康管理 何を見るのか・オーナーへのアドバイス		
4	予防注射について 時期や種類(混合vac/RV)①		
5	予防注射について 時期や種類(混合vac/RV)②		
6	公衆衛生 感染とは/消毒・殺菌・滅菌		
7	公衆衛生 人獣共通感染症・自分の身を守る知識・衛生的手洗い(実習)		
8	犬猫の皮膚 構造と特徴・よく見られる皮膚病		
9	犬猫の耳 構造と特徴・よく見られる病気		
10	犬猫の眼 構造と特徴		
11	犬猫の眼 よく見られる病気・点眼について・点眼の実習(実際の犬)		
12	内部寄生虫・外部寄生虫 一般的なもの/増えてきているもの		
13	内部寄生虫・外部寄生虫 人への感染・オーナーへのアドバイス		
14	犬猫の歯 構造と特徴 歯式		
15	犬猫の歯 歯のケア(実際の犬) 多い病気		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 70 % 授業参加度: 20 % 出席 : 10%		筆記試験	
履修上の注意事項			

科目名	トレーニング概論		
科目区分	選択必修 1年トレーナー専攻	単位数	1
担当教員	山美希実 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材	深読み先読みテクニック,JHKC訓練基本マニュアル		
<p>犬のボディランゲージを理解し、犬の出すサインや気持ちを読み取る洞察力を向上させること、 犬の行動に対しての正しい対処方法と犬へのアプローチ方法を習得</p>			
回	講義概要		
1	トレーニングレポート作成		
2	担当犬の観察、観察ポイント トレーニング問題点を思案		
3	血統書の見方、犬の適正や性質を考える		
4	犬の行動観察と分析(挨拶)		
5	犬の行動観察(仔犬と大人)		
6	犬の行動観察(犬嫌いな犬)		
7	犬の行動観察(友好的な犬)		
8	犬の行動観察(付き合い下手)		
9	犬の行動観察(攻撃行動)		
10	犬の行動観察(散歩引っ張る)		
11	犬の行動観察(穏やかな散歩)		
12	犬の行動観察(仔犬)		
13	犬の行動観察(トレーニング中)		
14	犬の行動観察(初めての場所)		
15	総復習		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50 %	筆記試験を実施	
授業参加度:	40 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項			

科目名	トレーニング実習 I		
科目区分	選択必修 1年トレーナー専攻	単位数	3
担当教員	中谷雅子・山美希実(非常勤講師・学科教員)		
教室番号		開講数	68
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 担当犬の問題点を正しく理解し効率的なトレーニングを思案する 様々なコマンド、芸事を犬に理解させること ドッグダンスの構成を考え披露するまでを行う			
回/週	講義概要		
1	現状確認、目標設定		
2	基本訓練強化(脚側)		
3	基本訓練強化(招呼)		
4	基本訓練強化(停座)		
5	基本訓練強化(伏臥)		
6	基本訓練強化(立止)		
7	ドッグダンス構成		
8	ドッグダンス課目を増やす1		
9	ドッグダンス課目を増やす2		
10	ドッグダンス課目を増やす3		
11	ドッグダンス犬との合わせ1		
12	ドッグダンス犬との合わせ2		
13	救助犬吠えろ		
14	救助犬搜索(鬼ごっこ)		
15	救助犬搜索(現場想定)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	30 %	実技試験を実施する	
授業参加度:	60 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり 訓練ノートを各自用意。毎日の授業の振り返りを行うこと		

科目名	動物栄養学 I		
科目区分	1年 必修	単位数	1
担当教員	門田 英敏 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
6大栄養素の基礎を修得する 適切なフードを選べる 手作りフードのメリットとデメリットを理解する 給仕量の調整が理論的に実施できる			
回/週	講義概要		
1	ヒト・イヌ・ネコ 必要な栄養素の違い		
2	味覚の違い		
3	好きな食材・嫌いな食材		
4	避けたい食材・注意が必要な食材		
5	市販フードの種類と選び方		
6	表示の見方		
7	手づくりフードの利点と注意点		
8	犬用フードを作ってみよう		
9	猫用フードを作ってみよう		
10	アレルギー用フードを作ってみよう		
11	フードの保存方法		
12	痩せ・肥満と給餌法		
13	日頃の健康管理		
14	食餌で気をつけること		
15	まとめ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

科目名	動物形態機能学実習		
科目区分	選択必修 1年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	徳田龍弘（非常勤講師）		
教室番号		開講数	23
使用教材	解剖道具、ガスコンロ、鍋、ポリデント、恒温器		
授業の内容及び方法・目的 ・両生類(カエル)、鳥類、哺乳類(マウス・ラット)の体の作りと仕組みを学ぶ ・ノートにスケッチをしていってもらい、最後に提出してもらって評価を行う。 授業の板書はホワイトボードでおこなう。			
回/週	講義概要		
1	カエルの解剖 講義・手順説明		
2	カエルの解剖 外貌スケッチ・剥皮		
3	カエルの解剖 表面筋肉の観察・スケッチ		
4	カエルの解剖 内臓の位置確認・内臓の取り出し		
5	カエルの解剖 内蔵各部のスケッチ		
6	カエルの解剖 肉及び骨格を煮る、大雑把な肉取り		
7	カエルの解剖 細かな肉取り・骨各部のスケッチ		
8	カエルの解剖 骨各部のスケッチ(特に四肢に関わる骨)		
9	鳥類の解剖 外貌観察・スケッチ・羽取り・剥皮		
10	鳥類の解剖 表面筋の観察スケッチ		
11	鳥類の解剖 内臓の位置確認・内臓の取り出し		
12	鳥類の解剖 内蔵各部のスケッチ		
13	鳥類の解剖 肉及び骨格を煮る、大雑把な肉取り		
14	鳥類の解剖 細かな肉取り・骨格部のスケッチ		
15	鳥類の解剖 骨格部のスケッチ(特に椎骨に関わる骨)		
16	マウス・ラットの解剖 外貌の観察・スケッチ・羽取り・剥皮		
17	マウス・ラットの解剖 表面筋の観察スケッチ		
18	マウス・ラットの解剖 内臓の位置確認・取り出し		
19	マウス・ラットの解剖 内蔵各部のスケッチ		
20	マウス・ラットの解剖 肉及び骨格を煮る、大雑把な肉取り		
21	マウス・ラットの解剖 細かな肉取り・骨格部のスケッチ		
22	マウス・ラットの解剖 骨格部のスケッチ(全身像)		
23	まとめ、馬等の骨の観察		
成績評価の方法 定期試験:0% 授業参加度:70% 出席:30%		定期試験の方法 ペーパーテストは行わない。 授業中にスケッチしたノートを提出してもらい、その内容で採点を行う。	
履修上の注意事項		・モバイル機器の使用【可】ただしWEB等への公開はしないこと ・点呼時はこちらを見て手を上げて返事をする ・動物に関する新しいトピックがあれば授業中に紹介することがあります ・配布プリントを、レポートして提出してもらうことがあります	

科目名	動物繁殖学		
科目区分	自由選択 1年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理の基礎知識を修得する。			
回/週	講義概要		
1	遺伝の基礎 生殖器の発生と構造		
2	雌性生殖器		
3	雄性生殖器		
4	生殖生理と精子		
5	犬の生殖器系ホルモン		
6	犬の性周期		
7	犬と猫の繁殖生理		
8	交配適期と判定		
9	受精と着床		
10	妊娠と妊娠診断		
11	胎児の発達と分娩		
12	難産 帝王切開		
13	産後の母親の疾患		
14	新生児の看護と授乳期		
15	離乳とその後		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正当等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

科目名	動物病理学		
科目区分	選択必修 1年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
6大栄養素の基礎を修得する 適切なフードを選べる 手作りフードのメリットとデメリットを理解する 給仕量の調整が理論的に実施できる			
回/週	講義概要		
1	総論		
2	病気の変遷		
3	細胞や組織に生じる変化		
4	退行性病変		
5	進行性病変		
6	循環障害		
7	ショック		
8	炎症の基礎		
9	炎症の遷移		
10	腫瘍の基礎		
11	腫瘍の種類と遷移		
12	先天異常		
13	組織標本と病理組織検査		
14	可逆と不可逆		
15	まとめ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

科目名	動物臨床検査学Ⅱ		
科目区分	選択必修 1年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏（学科教員）		
教室番号	臨床検査実習室	開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 さまざまな臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。 前期に行った内容を理論的に修得することを目標とする。			
	講義概要		
1	検査の種類と目的		
2	身体一般検査		
3	血液検査		
4	尿検査		
5	糞便検査		
6	細胞診		
7	心電図検査		
8	X線検査		
9	超音波検査		
10	内視鏡検査の基本的知識		
11	CT・MRI検査の基本的知識		
12	神経学的検査		
13	皮膚検査		
14	眼科検査		
15	外耳道検査		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験：60 % 授業参加度：25 % 出席：15 %		筆記試験	
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による		

＜平成31年度 ペット・動物看護・動物自然学科 シラバス＞

科目名	業界研究Ⅱ	学年 コース	2年 動物看護師専攻
講師名	荒木 周平	開講コマ数	必修 8コマ (1単位)
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他() 【 ほぼ毎回 】 【 時々 】		
モバイル機器の使用	【 可 】 【 不可 】 【 指示のあった時のみ使用可 】		
教科目標	① 動物病院業界について理解する。 ② 動物病院等への就職のため必要なスキルを身につける。 ③ 今後経験する社会常識や社会通念および現状の社会の仕組みを理解する。		
講義内容	1	ITリテラシーについて。テキストを使用し、特にSNSの特徴を理解する。	
	2	履歴書の書き方① 今後記載する公または私文書の重要性を理解する。	
	3	履歴書の書き方② 自己PR、志望動機の書き方を通じ、自己分析、企業分析の重要性について学ぶ。	
	4	キャリアプランについて。今後のキャリアプランについて方法論を理解する。	
	5	近代史 近代史を通じて日本の経済の仕組みや、動物業界の経済にとについて学び、業界分析ができるようにする。	
	6	会社の仕組みとパーソナルファイナンス。独特である日本の会社の仕組みや動物業界の会社組織について学び、業界分析ができるようにする。	
	7	求人票の見方。実際の求人票を使い、社会保険、最低賃金制度などを理解し、日本の経済について学ぶ。	
	8	まとめ。日本の社会情勢、日本の動物業界の情勢、日本の動物病の情勢、自己について理解した上で、自分がどのようなキャリアプランを構築するか考え、表現する。	
理解度の把握	毎時間、発表または感想を書くことで理解度を把握する。		
学生との共通認識事項	① 主体的に学んでください。 ② 社会の現実を伝えます。目をそらさないでください。 ③ 今後のあなたの人生について、ここで一度決定しなければなりません。 ④ 答えはありません。あなたの決めたことが答えです。		

科目名	動物福祉論		
科目区分	2年 必修	単位数	1
担当教員	小田健郎(非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 動物の福祉を考える上で必要なことを学ぶ。			
回/週	講義概要		
1	動物の福祉についての考え方①		
2	動物の福祉についての考え方②		
3	動物の福祉についての考え方③		
4	動物の福祉についての考え方④		
5	動物の福祉についての考え方⑤		
6	動物の福祉を扱う法令①		
7	動物の福祉を扱う法令②		
8	動物の福祉を扱う法令③		
9	ペットとして飼育される動物の福祉について		
10	産業動物として飼育される動物の福祉について		
11	展示動物として飼育される動物の福祉について		
12	野生動物の福祉について		
13	世界における動物の福祉①		
14	世界における動物の福祉②		
15	総括		
成績評価の方法 定期試験： 50% 授業参加度： 35% 出席： 15%		定期試験の方法 筆記試験	
履修上の注意事項		授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることとする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。	

＜平成31年度 動物看護・ペット学科 シラバス＞

科目名	臨床動物看護学Ⅱ	学年 コース	動物看護師専攻 2年
講師名	今木康彦(非常勤講師)	開講コマ数	選択必修 15 コマ (1 単位)
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(テレビ) 【 ほぼ毎回 】 【 時々 】		
モバイル機器 の使用	【 可 】	【 不可 】	【 指示のあった時のみ使用可 】
教 科 目 標	動物の疾病ごとの看護について、動物看護過程をふまえ動物看護方法を学ぶ。		
講 義 内 容	1	一般身体検査	
	2	体温①	
	3	体温②	
	4	体のしくみ①	
	5	体のしくみ②	
	6	体のしくみ③	
	7	循環器系疾患の看護①	
	8	循環器系疾患の看護②	
	9	循環器系疾患の看護③	
	10	呼吸器系疾患の看護①	
	11	呼吸器系疾患の看護②	
	12	呼吸器系疾患の看護③	
	13	泌尿器系疾患の看護①	
	14	泌尿器系疾患の看護②	
	15	泌尿器系疾患の看護③	
理 解 度 の 把 握	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の理解度を確保するための小テストを適宜実施する。 ○授業全体の理解度の評価は定期試験とする。 		
学 生 と の 共 通 認 識 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ○板書による説明だけに留まらず動画も活用して授業を進めていくこととする。 ○授業中に分からないときにモバイル機器による検索を許可します。 		

科目名	講読演習Ⅱ		
科目区分	選択必修 2年トリマー専攻	単位数	1
担当教員	山田 由香（専任教員）		
教室番号	231	開講数	15
使用教材	プリント		
授業の内容及び方法・目的 企業研究会・研修および就職向け書類作成、企業へのアポイントメントを行います。 また、担当犬との関りを持ち理解を深めます。 各イベントでの実践的な接客を学びます			
講義概要			
1	担当犬と2年時のトリミング		
2	ITリテラシー サポートアンケート 担当犬		
3	履歴書の書き方 学歴～資格実習まで		
4	履歴書の書き方 自己PR～志望動機		
5	担当犬		
6	業界研修に関して		
7	担当犬		
8	業界研修履歴書作成、企業研究会自己PR、イベントに関して		
9	企業研究会、イベントの関して、担当犬、学園祭		
10	業界研修:電話のかけ方と実践 担当犬		
11	業界研修:注意事項と研修ノート 担当犬		
12	業界研修:履歴書の完成と事前挨拶に関して 担当犬		
13	業界研修:報告会 担当犬		
14	愛護フェスティバル 担当犬		
15	愛護フェスティバル 担当犬		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 40 % 授業参加度: 50 % 出席 : 10 %		担当犬グルーミングレポート	
履修上の注意事項	授業参加度は 担当犬への積極的なかわりやクラス内での協力体制と 各期限の厳守などにより評価		

科目名	動物保護実習		
科目区分	2年 必修	単位数	1
担当教員	門田 英敏 (学科教員)		
教室番号		開講数	23
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
動物保護の現場へ赴き、犬猫の保護活動の実務を学ぶ。 スタッフの方々およびボランティアの方々からその態度姿勢を学ぶ。 各々の専門現場および卒業後の進路で動物保護の現場経験を活かす。			
講義概要			
1	保護犬の衛生管理		
2	保護犬の美容		
3	保護犬の運動・馴化		
4	保護猫の飼養管理		
5	保護犬猫の健康管理		
6	収益グッズの作成		
7	多頭飼育猫と保護団体		
8	野生鳥獣保護		
9	動物愛護イベントにおける啓蒙活動の実際		
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	40%	レポート	
授業参加度:	45%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	「特定NPO法人北海道しっぽの会」現場実習 「環境省ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」見学訪問 動物愛護イベントの参加		

科目名	トリミング実習Ⅱ		
科目区分	選択必修 2年トリミング専攻	単位数	7
担当教員	(学科教員)山田 (非常勤講師)伊藤 銭谷 瀧 秋山		
教室番号	トリミング実習室	開講数	158
使用教材	トリミング道具 配布プリント テキスト(プードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
<p>毎回の授業で実際の犬に触れることが出来る授業です。 実際の現場で犬種や飼い主様が変わるように2コマごとに犬が変わります。 状況に左右されることなく一定した気持ちとやさしさを持ち、犬への声かけやおもいやり、ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。 全犬種においてベーシックの完成度とスピードアップを行い、犬種ごとのカットや全体的なバランスを考慮し欠点をカバーできるトリミングを学びます。 目標時間内での完成を目指します。 また、エコサロンにいらっしゃるお客様の対応も学びます</p>			
講義概要			
下記内容を158コマ79回の実習を通して連続的に学びます			
ベーシックの完成度と時間短縮			
シャンプーの完成度と犬種にあったブロー			
道具の正しい使用			
犬体コントロールとコミュニケーション			
カット(全貌・バランス・目線の高さ・シザーワーク)			
プードルのスタンダード理解と欠点カバー・カット順の理解			
時間内での完成			
ポートフォリオ			
接客			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項		評価の詳細 定期試験: 100点満点を20%計算 授業参加度: 各項目・作業における実習中のチェック(爪・足裏・耳、ブラッシング、シャンプー・ブロー、道具の使用、時間、犬対応、視線・全貌、バランス、仕上がり、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。欠席は0点 1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を79回の授業の合計授業参加点 237～205→70点 204～175→60点 174～140→50点 139～105→40点 104～ 79→30点 78～ →20点 出席点: 出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0	

科目名	トリミング実習Ⅱ		
科目区分	必修・選択必修 2年トリマー・トレーナー専攻	単位数	2
担当教員	(学科教員)山田 (非常勤講師)伊藤 銭谷 瀧 秋山		
教室番号	トリミング実習室	開講数	45
使用教材	トリミング道具 配布プリント		
授業の内容及び方法・目的			
<p>毎回の授業で実際の犬に触れることが出来る授業です。 実際の現場で犬種や飼い主様が変わるように2コマごとに犬が変わります。 犬種や犬の性格・癖などによる保定や対応を実践しながら、ベーシック技術の習得、基本的なカット技法の習得を目標とします。 さらに状況に左右されることなく一定した気持ちとやさしさを持ち、犬への声かけやおもいやり、ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。</p>			
回/週	講義概要		
下記内容を23回の実習を通して以下の項目について連続的に学びます			
ベーシックの完成度と時間短縮			
道具の正しい使用			
犬体コントロール(保定)とコミュニケーション			
犬種ごとのカット(足回り、肛門周り、ヒゲ)			
目標時間内での完成			
接客			
清掃と消毒			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項	評価の詳細 定期試験: 100点満点を20%計算 授業参加度: 各項目・作業における実習中のチェック(爪きり、足裏、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ブロー、道具の使用、時間、犬対応、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。欠席は0点 1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を23回の授業の合計授業参加点 69～60→70点 59～50→60点 49～40→50点 39～30→40点 29～23→30点 22～ →20点 出席点: 出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	ドッググッズプロデュース		
科目区分	自由選択 2年ペットトリマー専攻	単位数	2
担当教員	金平 佳奈子 (非常勤講師)		
教室番号	231	開講数	30
使用教材	ミシン		
授業の内容及び方法・目的 洋裁の基本を学び、製図・裁断・縫製の一連の作業を身につけるそれぞれの課程を丁寧に完成度の高い作品をつくります			
回/週	講義概要		
1	洋裁の基本(1コマ)		
2	お散歩バッグ(2コマ)		
3	ラップ型ウェア(2コマ)		
4	Tシャツ(5コマ)		
5	小物(マナーパッド・パンツ・おもちゃ・首輪etc)(2コマ)		
6	タンクトップ(5コマ)		
7	パーカー(5コマ)		
8	ベッド(4コマ)		
9	自由課題(4コマ)		
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価の方法 定期試験: 25 % 授業参加度: 60 % 出席 : 15 %		定期試験の方法 筆記試験	
履修上の注意事項		スマホの使用について・・・実習に関わるときのみ許可を取って使用可とする。 作業台の上には作業に必要な物意外は乗せない	

科目名	トレーニング実習ⅢA		
科目区分	選択必修 2年ドッグトレーナー専攻	単位数	4
担当教員	中谷雅子(非常勤講師)山美希実(学科教員)		
教室番号		開講数	90
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 競技会にむけて、規定の課目を犬に身につけさせる。そのための訓練方法を習得する アジリティーのコースの走り方と各ポイントや注意点を理解し競技会で発揮する セラピー活動を通じて、犬・人への配慮、コミュニケーションの重要性を理解する 救助犬の育成方法を習得 犬の能力を引き出し、可能性を広げる力を習得			
回	講義概要		
1	授業の目的、評価ポイントの説明		
2	年間の競技会の確認、目標設定		
3	担当犬・仮担当犬の現状確認。トレーニング課題の確認		
4	担当犬に関しては家庭犬訓練初等科の課目を熟練 中等科の課目に取り組む		
5	アジリティー。各障害物の訓練		
6	仮担当犬と信頼関係の向上をメインに行う		
7	セラピー活動、警察犬訓練		
8	競技会に向けての取り組み&1年生への指導		
9	訓練：出場を目指す各課目を徹底訓練		
10	アジリティー：コース練習・適切なハンドリング方法		
11	訓練：環境を変えて様々な誘惑の中で訓練、行進中の課目と遠隔での操作		
12	アジリティー：コース練習・苦手障害物の克服		
13	訓練：苦手科目の克服と新たな課目を取り組み(最低2つ)		
14	新担当犬の目標設定・トレーニング課題の確認		
15	競技会に向けての取り組み・救助犬訓練		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験：	30 %	実技試験を実施	
授業参加度：	60 %		
出席：	10 %		
履修上の注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり 訓練ノートを各自用意。毎日の授業の振り返りを行うこと		

科目名	動物薬理学		
科目区分	選択必修 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	大石 悦子 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材	動物看護コアテキスト「動物の疾病と予防及び回復」(ファームプレス)		
授業の内容及び方法・目的			
<p>病気の治療法や薬剤の使い方は、まず「病態生理」を理解する必要があります。使用される薬の意義や役割を、正しく把握するための基礎知識を得た上で、臨床薬を中心にその薬理作用、すなわち「どのように効果を発揮するのか」を説明ができるように、病態生理から見た薬の使われ方を学んでいきます。</p> <p>また、実践問題として、各薬剤の動物種ごとの薬用量をしっかりと理解し、必要投与量を正確に計算できるようになります。</p>			
回/週	講義概要		
1	オリエンテーション(動物薬理学を学ぶにあたって) 動物看護師による薬物の取扱い		
2	動物薬理学の基礎 薬用量計算トレーニング		
3	神経系に作用する薬物 ①麻酔薬 ②鎮痛薬 ③運動神経に作用する薬		
4	" ④鎮静薬 ⑤行動異常治療薬 薬用量計算トレーニング		
5	呼吸器系に作用する薬物 ①呼吸興奮薬 ②鎮咳薬 ③去痰薬 ④気管支拡張薬		
6	循環器・泌尿器の作用薬 ①血管拡張薬②心不全治療薬 薬用量計算トレーニング		
7	" ③抗不整脈薬 ④利尿薬		
8	消化器に作用する薬 ①制吐薬 ②抗潰瘍薬他 薬用量計算トレーニング		
9	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 ①オータコイド ②糖尿病治療薬		
10	" ③甲状腺障害治療薬 ④ステロイドホルモン 薬用量計算トレーニング		
11	血液・免疫系に作用する薬物 ①抗貧血薬 ②血液凝固抑制薬・促進薬		
12	" ③抗炎症薬 ④免疫抑制薬 薬用量計算トレーニング		
13	化学療法薬 ①消毒薬 ②殺虫薬 ③抗菌薬		
14	" ④抗真菌薬 ⑤駆虫薬 ⑥抗腫瘍薬 薬用量計算トレーニング		
15	定期試験対策 授業のまとめと総復習		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60 %	全15回を終了した段階で、学んだ範囲の記述式試験を行う。	
授業参加度:	30 %		
出席 :	10 %		
履修上の注意事項	通常の授業内に学習範囲のプリント問題を実施し、理解度を把握するとともに、疑問点を明瞭にし、不得意分野の解消に努める。		

＜ 2019年度 動物看護・ペット学科 シラバス＞

科目名	病原体・衛生管理	学年 コース	動物看護師専攻 2年
講師名	一戸 瑞枝	開講コマ数	自由選択15コマ (1単位)
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他 () 【 ほぼ毎回 】 【 時々 】		
成績評価の方法	出席： 0%	授業参加度 (小テスト)： 0%	
	中間試験： 20%	定期試験： 80% (筆記)	
教科目標	<p>動物の病原体のうち、人獣共通感染症の病原体となるものも含めて、主に「寄生虫と原虫」についてその生活環や感染経路、宿主の臨床症状などを学ぶ。</p> <p>また1年で学習した「滅菌法と消毒法」を基本として、その使用法も含めてさらに理解を深める。</p>		
講義内容	1	寄生虫とは	寄生虫の生活史 寄生虫の分類
	2	外部寄生虫と内部寄生虫	寄生虫卵の形態と構造
	3	外部寄生虫 1	ノミ、シラミ
	4	外部寄生虫 2	ダニ
	5	原虫 1	
	6	原虫 2	
	7	まとめ、	中間試験
	8	消化器症状を示す内部寄生虫	1
	9	消化器症状を示す内部寄生虫	2
	10	全身症状を示す内部寄生虫	1
	11	全身症状を示す内部寄生虫	2
	12	ほとんど無症状の内部寄生虫	
	13	滅菌法と消毒法	1
	14	滅菌法と消毒法	2
	15	前期内容の復習、定期試験の準備	
理解度の把握	<p>小テストを毎回実施し、授業の参加度をチェックして全員参加を促す。</p> <p>既習内容については、随時学生を指名して復習を重ねる。</p> <p>動物看護師認定試験の過去問演習も随時実施して知識の定着を目指す。</p>		
その他	<p>授業時には忘れずに動物看護コアテキスト3 (動物の疾病と予防および回復) および冊子テキスト (初回授業時に配布) を持参すること。</p>		

科目名	動物栄養学Ⅲ		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏（学科教員）		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
犬猫の生態の相違点を理解し、必要な基本栄養素の機能、食材の分布を理解する。また、手作りフードの利点と難しさを学び、実際に調理することで、その理解を深める。			
講義概要			
1	犬と猫の相違点		
2	水		
3	蛋白質		
4	アミノ酸		
5	脂肪		
6	必須脂肪酸		
7	脂肪劣化のメカニズム		
8	炭水化物		
9	糖質と食物繊維		
10	ビタミン		
11	ミネラル		
12	手作りフードのメリット		
13	手作りフードのデメリット		
14	食材と調理		
15	まとめ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

＜ 2019年度 動物看護・ペット学科 シラバス＞

科目名	動物看護実習Ⅳ	学年 コース	動物看護師専攻 2年
講師名	高砂 友美	開講コマ数	選択必修23コマ
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他 () 【 ほぼ毎回 】 【 時々 】		
成績評価の方法	出席： 10%	授業参加度： 50%	定期試験： 40% (筆記)
教科目標	即戦力となる技術を身につける		
講義内容	1	理想の看護師について考える 1年次の復習	
	2	犬猫のTPR 保定 / フード・療法食について	
	3	犬猫のTPR 保定 / フード・療法食を飼主様へ説明する	
	4	犬猫のTPR 保定 / ダイエットの必要性	
	5	犬猫のTPR 保定 / 血液検査の機械などの使用方法再確認	
	6	犬猫のTPR 保定 / 輸液ポンプ・シリンジポンプ使用法再確認	
	7	犬猫のTPR 保定 / 手術器具の確認	
	8	犬猫のTPR 保定 / 包帯法	
	9	犬猫のTPR 保定 / 入院管理 (幼齢・高齢)	
	10	犬猫のTPR 保定 / 復習	
	11	実技テスト (保定・機械類の使用法)	
	12	犬猫のTPR 保定 / 確認	
	13	犬猫のTPR 保定 / テスト対策	
	14		
	15		
理解度の把握	積極的な授業参加姿勢を評価する		
その他	※動物看護実習Ⅳb と併せて動物看護実習Ⅳ 2単位とする。		

科目名	動物看護実習Ⅳ		
科目区分	選択必修 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田英敏(学科教員) 竹原晶代(非常勤講師)		
教室番号		開講数	22
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
回/週	講義概要		
1	指導実習(犬のT.P.R.を新入生に指導する)		
2	指導実習(猫の看護法、後駆麻痺犬の看護法)		
3	外科実習準備(ガウン・ドレープの畳み方、滅菌作業)		
4	外科実習準備(外回り、消毒、助手、麻酔、役割分担、説明)		
5	外科実習準備(手術器具の取扱い、洗浄方法、種類)		
6	外科実習準備(麻酔導入～覚醒までの注意点)		
7	外科実習準備(手術内容に合わせた器具・物品を考える)		
8	臨床実習概要(何を学ぶか)		
9	臨床実習の心構え(看護師の視点)		
10	臨床実習の心構え(獣医師の視点)		
11	臨床実習の心構え(これまでの実習の振り返り)		
12	臨床実習の心構え(事例研究)		
13	臨床実習の心構え(働くという視点)		
14	実習の振り返りとプレゼンテーション資料作成		
15	実習プレゼンテーション(研修内容を説明する)		
16	実習プレゼンテーション(研修内容から得たものを伝える)		
17	保定(立位・座位・横臥位)		
18	保定(駆血・採血・血液検査)		
19	保定(大型犬・小型犬・中型犬)		
20	保定(猫)		
21	保定(実技試験)		
22	実習と就職活動		
23			
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	35%	実技試験を実施する	
授業参加度:	50%		
出席:	15%		
履修上の注意事項	※別途開催される動物看護実習Ⅳと併せて90時間2単位となる		

科目名	動物臨床検査学実習Ⅳ		
科目区分	選択必修 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏		
教室番号	臨床検査実習室	開講数	23
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
学内飼育動物でみられるさまざまな動物たちを検体として、これまでに修得した技能技術を深めていく。特に細菌検査の考え方と技法を中心に学ぶ。			
回/週	講義概要		
1	オリエンテーション		
2	細菌検査: 培地の作成		
3	細菌検査: 無菌操作		
4	細菌検査: 画線培養とシングルコロニー		
5	細菌検査: コンラージ		
6	細菌検査: グラム染色		
7	細菌検査: 薬剤感受性試験		
8	細菌検査: 選択培地		
9	フィラリアの検査と薬剤投与量		
10	尿検査: ストルバイト結晶の考え方		
11	便検査: 回虫卵の観察		
12	便検査: 草食獣(原虫の観察)		
13	保護猫に多い病気とその検査		
14	病理組織検査と診断書の読み方		
15	まとめ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正当等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

科目名	外科動物看護実習		
科目区分	選択必修 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	中澤 茂樹 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	23
使用教材	①動物看護の実践6(ファームプレス) ②専門分野動物外科看護技術(inter zoo) ③動物看護学テキスト(ファームプレス)谷口著 ④ビジュアルで学ぶ動物看護学(チクサン出版社)		
授業の内容及び方法・目的 基本的な去勢、不妊手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理をできるようにしましょう。			
回/週	講義概要		
1	手洗い、手の拭き方、術着、手術手袋の装置法 (①P2-5、26-29、③P128-131)		
2	麻酔器、気管挿管(①P21-23、③P119-121)		
3	手術前準備、毛刈り、術野の消毒 (①P7-12、25-26、②P33、35-45、③P138)		
4	滅菌と消毒(①P15-16)局所麻酔と全身麻酔		
5	全身麻酔、毛刈り、術野の消毒、器具だし		
6	外科器具、縫合材料と縫合法(①P45-53)		
7	術前検査(①P13-14、54-55)		
8	手術当日の仕事の流れ、麻酔に使う薬(①P56)		
9	歯科学、歯石除去(④P46-57)		
10	術中麻酔モニター(①P30-32、58-62)		
11	創傷管理、ドレーンの管理、骨折(①P42-44、②P11-19)		
12	栄養学(①P39-41)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	50 %	記述試験	
授業参加度:	50 %		
出席 :	%		
履修上の注意事項			

科目名	動物人間関係学		
科目区分	2年 必修	単位数	1
担当教員	今木康彦(非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的 授業の目的は、人と動物の絆(Human Animal Bond; HAB)の理念と動物介在介入(以下、アニマル・セラピー)を理解することである。 アニマル・セラピーは、学問的にまだ未熟であり、世界的にも事例を集め理論化し、その可能性を模索・実践している分野である。 人と動物の絆(Human Animal Bond; HAB)の理念および動物介在介入(以下、アニマル・セラピー)の具体的な実践方法である動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育について映像を使いながら授業を進めていくこととする。			
回/週	講義概要		
1	人と動物の関係の歴史① 西洋社会 狩猟・採集型の移動生活		
2	人と動物の関係の歴史② 西洋社会 農耕社会		
3	人と動物の関係の歴史③ 西洋社会 コンパニオンとしての動物		
4	人と動物の関係の歴史④ 日本社会 農耕生活とアニミズム信仰		
5	人と動物の関係の歴史⑤ 日本社会 日本仏教的動物観		
6	アニマル・セラピーの概要 動物介在介入、動物介在療法、動物介在活動、動物介在教育		
7	アニマル・セラピーの歴史① 最も長い歴史を持つ乗馬療法		
8	アニマル・セラピーの歴史② 盲導犬の発祥		
9	アニマル・セラピーの歴史③ 精神疾患治療に導入された動物との触れ合い		
10	動物から得られる人への効果① 1)身体的効果		
11	動物から得られる人への効果② 2)心理的効果		
12	動物から得られる人への効果③ 3)社会的効果		
13	介在動物の選定と動物福祉		
14	アニマル・セラピーの様々な方法		
15	ペット・ロスについて		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	記述試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項			

科目名	講読演習Ⅱ		
科目区分	選択必修 2年トリマー専攻	単位数	1
担当教員	金平 加奈子（非常勤講師）		
教室番号	231	開講数	15
使用教材	ミシン		
授業の内容及び方法・目的 今までの製作の中で身に付けた技術を生かし、商品となるグッズ・ウェアを目標とする。 デザイン・裁断・縫製と、自らの手で1つの作品を完成させる事が出来る。			
講義概要			
1	パラコード 首輪&リード 6コマ		
2	ラップ型レインコート 2コマ		
3	コート 4コマ		
4	ベッド 3コマ		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価の方法 定期試験： 25 % 授業参加度： 60 % 出席 : 15 %		定期試験の方法 筆記試験	
履修上の注意事項		スマホの使用について・・・実習に関わるときのみ許可を取って 使用可とする。 作業台の上には作業に必要な物意外は乗せない	

科目名	トリミング実習Ⅲ		
科目区分	選択必修 2年トリマー専攻	単位数	5
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	113
使用教材	トリミング道具 配布プリント テキスト(ブードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
<p>実際の現場同様に飼い主様や犬種が変わるように2コマごとに犬が変わります。状況に左右されることなく一定した気持ちとやさしさを持ち、犬への声かけやおもいやり、ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。全犬種においてベーシックの完成度とスピードアップ特にシャンプーとブローの完成度を上げていきます。、犬種ごとスタンダードを意識し全体的なバランスを考慮し欠点をカバーできるトリミングを学びます。目標時間内での完成を目指します。また、エコサロンにいらっしゃるお客様の対応もマニュアルからのワンランクアップを目指します。</p>			
講義概要			
1	セルフコントロール		
2	犬体コントロールとテーブルマナー		
3	道具の正しい使用		
4	ベーシック:シャンプー		
5	ベーシック:ブロー(犬種にあったブロー)		
6	ベーシックのスピードと完成度		
7	カット:全貌		
8	カット:バランス		
9	カット:目線の高さ適切な距離		
10	カット:シザーワーク		
11	プードルのスタンダードへの理解と欠点カバーの実践		
12	接客とカウンセリング		
13	時間内での完成度		
14	ポートフォリオ		
15	接客業としてのトリミング実践と意識(表情・道具の使用・犬体コントロールなど)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項	評価の詳細 授業参加度:各項目・作業における実習中のチェック(爪・足裏・耳、ブラッシング、シャンプー・ブロー、道具の使用、シザーワーク、時間、視線・全貌・バランス、仕上がり、表情と犬対応、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。欠席は0点 1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を57回の授業の合計授業参加点 171～147→70点 146～123→60点 122～97→50点 96～73→40点 72～58→30点 57～ →20点		
	出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	トリミング実習Ⅲ		
科目区分	選択必修 2年トレーナー専攻	単位数	2
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	45
使用教材	トリミング道具・配布プリント		
授業の内容及び方法・目的			
<p>毎回の授業で学校犬ではない犬に触れることが出来る授業です。 実際の現場で飼い主様や犬種が変わるように2コマごとに犬が変わります。 犬種や犬の性格・癖などによる保定・対応の実践をしながら、ベーシック技術の向上、基本的なカット技法の修得を目標とします。 さらに状況に左右されることなく一定の気持ちとやさしさを持ち、犬への声かけやおもいやり、ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。</p>			
講義概要			
1	セルフコントロール		
2	犬体コントロールとテーブルマナー		
3	道具の正しい使用		
4	ベーシックの完成度とスピード		
5	ベーシック:爪切り		
6	ベーシック:足裏バリカン		
7	ベーシック:ブラッシング		
8	ベーシック:耳掃除		
9	ベーシック:シャンプー		
10	ベーシック:ブロー		
11	犬種ごとの足回り・触覚毛カット		
12	エコサロンでの接客		
13	カット:バリカン使用とシザーでの部分カット		
14	実習室内での気配りとコミュニケーション		
15	接客業としてのトリミング実践と意識(表情・道具の使用・犬体コントロールなど)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項	評価の詳細 授業参加度:各項目・作業における実習中のチェック(爪きり、足裏、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ブロー、道具の使用、時間、犬対応、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。欠席は0点 1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を23回の授業の合計授業参加点 69～60→70点 59～50→60点 49～40→50点 39～30→40点 29～23→30点 22～ →20点		
	出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	トリミング実習Ⅲ		
科目区分	選択必修 2年動物看護師専攻	単位数	2
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	45
使用教材	トリミング道具・配布プリント		
授業の内容及び方法・目的			
<p>毎回の授業で学校犬ではない犬に触れることが出来る授業です。 実際の現場で飼い主様や犬種が変わるように2コマごとに犬が変わります。 犬種や犬の性格・癖などによる保定・対応の実践をしながら、ベーシック技術の向上、基本的なカット技法の修得を目標とします。 さらに状況に左右されることなく一定の気持ちとやさしさを持ち、犬への声かけやおもいやり、ペアとなる人とのコミュニケーション、実習室内全体への気配りを大切にしてもらいます。</p>			
講義概要			
1	セルフコントロール		
2	犬体コントロールとテーブルマナー		
3	道具の正しい使用		
4	ベーシックの完成度とスピード		
5	ベーシック:爪切り		
6	ベーシック:足裏バリカン		
7	ベーシック:ブラッシング		
8	ベーシック:耳掃除		
9	ベーシック:シャンプー		
10	ベーシック:ブロー		
11	犬種ごとの足回り・触覚毛カット		
12	エコサロンでの接客		
13	カット:バリカン使用とシザーでの部分カット		
14	実習室内での気配りとコミュニケーション		
15	接客業としてのトリミング実践と意識(表情・道具の使用・犬体コントロールなど)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 20 % 授業参加度: 70 % 出席 : 10 %		実技試験	
履修上の注意事項	評価の詳細 授業参加度:各項目・作業における実習中のチェック(爪きり、足裏、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ブロー、道具の使用、時間、犬対応、その他)の10項目3点～1点で毎回の授業で評価。欠席は0点 1日の平均点3～2.1→3 2.09～1.5→2 1.49～1→1 0→0 以上を23回の授業の合計授業参加点 69～60→70点 59～50→60点 49～40→50点 39～30→40点 29～23→30点 22～→20点		

出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0

科目名	業界実務実習 I		
科目区分	自由選択 2年トリマー専攻	単位数	1
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	23
使用教材	トリミング道具 配布プリント テキスト(プードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
担当犬(プードル)のトリミングを通してプードルのスタンダードを学びイメージを持ち、欠点をカバーし理想とするものを自分のカットで表現します。 トリマーライセンス取得を目指します。			
講義概要			
1	骨格		
2	被毛		
3	理論		
4	表現		
5	ベーシック		
6	チャンピングへのこだわりと完成度		
7	ブローの完成度		
8	欠点のカバー力		
9	時間配分		
10	イメージ		
11	全貌とバランス		
12	完成度		
13	担当犬との関係構築		
14	毎日の担当犬お手入れ		
15	1年生への担当犬引継ぎ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 40 % 授業参加度: 50 % 出席 : 10 %		トリマーライセンス	
履修上の注意事項	評価の詳細 ライセンス試験は12月に実施40%		
	授業参加度 ・担当犬のお手入れ10% ・授業での参加度…(チャンパー、ブロー、表現、全貌、その他)の5項目で30% 1日の平均点3~2.1→3 2.09~1.5→2 1.49~1→1 0→0 以上を12回の授業参加点合計が 36~31→30点 30~26→25点 25~21点→20点 20~16→17点 15~13→14点 12~ →10点 ・1年生への引継ぎ10% 出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0		

科目名	業界実務実習Ⅱ		
科目区分	自由選択 (2年トリマー専攻)	単位数	1
担当教員	非常勤講師 伊藤・銭谷・秋山・瀧、学科教員 山田		
教室番号	トリミング実習室A・B	開講数	23
使用教材	トリミング道具 配布プリント テキスト(プードルテキスト、ドッググルーマーズワークブック)		
授業の内容及び方法・目的			
担当犬(プードル)のトリミングを通してプードルのスタンダードを学びイメージを持ち、欠点をカバーし理想とするものを自分のカットで表現します。 トリマーライセンス取得を目指します。			
講義概要			
1	骨格		
2	被毛		
3	理論		
4	表現		
5	ベーシック		
6	チャンピングへのこだわりと完成度		
7	ブローの完成度		
8	欠点のカバー力		
9	時間配分		
10	イメージ		
11	全貌とバランス		
12	完成度		
13	担当犬との関係構築		
14	毎日の担当犬お手入れ		
15	1年生への担当犬引継ぎ		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験: 40 % 授業参加度: 50 % 出席 : 10 %		トリマーライセンス	
履修上の注意事項			
<p>評価の詳細 ライセンス試験は12月に実施40%</p> <p>授業参加度 ・担当犬のお手入れ10% ・授業での参加度…(チャンパー、ブロー、表現、全貌、その他)の5項目で30%</p> <p>1日の平均点3~2.1→3 2.09~1.5→2 1.49~1→1 0→0 以上を12回の授業参加点合計が 36~31→30点 30~26→25点 25~21点→20点 20~16→17点 15~13→14点 12~ →10点</p> <p>・1年生への引継ぎ10% 出席点:出席率100%→10 90%以上→9 80%以上→6 75%以上→4 75%未満→0</p>			

科目名	卒業研究		
科目区分	自由選択 2年トリマー専攻	単位数	1
担当教員	金平 加奈子（非常勤講師）		
教室番号	231	開講数	15
使用教材	ミシン		
授業の内容及び方法・目的 今までの製作の中で身に付けた技術を生かし、商品となるグッズ・ウェアを目標とする。 デザイン・裁断・縫製と、自らの手で1つの作品を完成させる事が出来る。			
講義概要			
1	ベッド1コマ		
2	ベストJK 4コマ		
3	myトートバッグ 4コマ		
4	自由製作 6コマ		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価の方法 定期試験： 25 % 授業参加度： 60 % 出席 : 15 %		定期試験の方法 筆記試験	
履修上の注意事項		スマホの使用について・・・実習に関わるときのみ許可を取って 使用可とする。 作業台の上には作業に必要な物意外は乗せない	

科目名	トレーニング実習ⅣA		
科目区分	選択必修 2年ドッグトレーナー専攻	単位数	4
担当教員	中谷雅子(非常勤講師) 山美希実(学科教員)		
教室番号		開講数	90
使用教材			

授業の内容及び方法・目的

基本姿勢の応用を習得(行進中の操作、遠隔操作)
 救助犬の育成(現場を想定したトレーニング方法を習得)
 各犬の苦手を克服するトレーニング方法を実践、習得
 ドッグダンスの構成から実践までを習得
 一般飼い犬とその飼い主の対応としつけのアプローチ方法を習得

回	講義概要
1	各担当犬現状確認
2	各担当犬の目標設定
3	基本訓練強化 遠隔操作
4	基本訓練強化 行進中の操作
5	基本訓練強化 状況を変えて
6	ドッグダンス構成
7	ドッグダンス芸を教える1
8	ドッグダンス芸を教える2
9	ドッグダンス 曲と合わせ
10	ドッグダンス 1曲通し
11	一般飼い主さんにしつけ(しつけ教室カウンセリング)
12	一般飼い主さんにしつけ(しつけ教室原因解明とアプローチ)
13	一般飼い主さんにしつけのアプローチ(実践指導)
14	一般飼い主さんにしつけのアプローチ(成果発表)
15	総復習

成績評価の方法	定期試験の方法
定期試験: 30 % 授業参加度: 60 % 出席: 10 %	実技試験を実施

履修上の注意事項 トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり
 訓練ノートを各自用意。毎日の授業の振り返りを行うこと

科目名	飼養管理学		
科目区分	選択必修 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	徳田龍弘（非常勤講師）		
教室番号		開講数	15
使用教材	プロジェクター		
授業の内容及び方法・目的 <ul style="list-style-type: none"> ・実験動物、産業動物、展示動物の役割と目的を理解する ・野生動物と環境保全を理解する ・動物福祉の観点から人と動物の関係を考え、共生等を検討する 			
回/週	講義概要		
1	実験動物①		
2	実験動物②		
3	産業動物① 概論		
4	産業動物② ウシ、ウマ		
5	産業動物③ ブタ、ニワトリ		
6	産業動物④ ヤギ、ヒツジなど		
7	産業動物⑤ 伝染病、人工授精、法規		
8	産業動物⑥ 畜産生産物、HACCP		
9	野生動物・展示動物① 動物に関わる仕事、分類		
10	野生動物・展示動物② 分類		
11	野生動物・展示動物③ 外来生物		
12	野生動物・展示動物④ 用語解説ほか		
13	野生動物・展示動物⑤ 法規関係		
14	野生動物・展示動物⑥		
15	まとめ、補足		
成績評価の方法 定期試験：60% 授業参加度：10% 出席：30%		定期試験の方法 ペーパーテスト 提出レポートは授業参加度での配点とする。	
履修上の注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル機器の使用【可】 ただしWEB等への公開はしないこと ・点呼時はこちらを見て手を上げて返事をする ・動物に関する新しいトピックがあれば授業中に紹介することがあります ・配布プリントを、レポートして提出してもらうことがあります 	

科目名	動物形態機能学Ⅲ		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	徳田龍弘（非常勤講師）		
教室番号		開講数	15
使用教材	解剖道具、ガスコンロ、鍋、ポリデント、恒温器		
授業の内容及び方法・目的 ・両生類(カエル)及び鳥類(ニワトリ)の体の作りと仕組みを学ぶ ・ノートにスケッチをしていってもらい、最後に提出してもらって評価を行う。 授業の板書はホワイトボードでおこなう。			
回/週	講義概要		
1	カエルの解剖 講義・手順説明		
2	カエルの解剖 外貌スケッチ・剥皮		
3	カエルの解剖 表面筋肉の観察・スケッチ		
4	カエルの解剖 内臓の位置確認・内臓の取り出し		
5	カエルの解剖 内蔵各部のスケッチ		
6	カエルの解剖 肉及び骨格を煮る、大雑把な肉取り		
7	カエルの解剖 細かな肉取り・骨各部のスケッチ		
8	カエルの解剖 骨各部のスケッチ(特に四肢に関わる骨)		
9	鳥類の解剖 外貌観察・スケッチ・羽取り・剥皮		
10	鳥類の解剖 表面筋の観察スケッチ		
11	鳥類の解剖 内臓の位置確認・内臓の取り出し		
12	鳥類の解剖 内蔵各部のスケッチ		
13	鳥類の解剖 肉及び骨格を煮る、大雑把な肉取り		
14	鳥類の解剖 細かな肉取り・骨格部のスケッチ		
15	鳥類の解剖 骨格部のスケッチ(特に椎骨に関わる骨)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:0%		ペーパーテストは行わない。	
授業参加度:70%		授業中にスケッチしたノートを提出してもらい、その内容で	
出席:30%		採点を行う。	
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル機器の使用【可】ただしWEB等への公開はしないこと ・点呼時はこちらを見て手を上げて返事をする ・動物に関する新しいトピックがあれば授業中に紹介することがあります ・配布プリントを、レポートして提出してもらったことがあります 		

科目名	動物疾病看護学Ⅲ		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
器官系別に代表的な症状、検査法、治療法および看護法を学び、類症鑑別ができるようになる。			
回/週	講義概要		
1	脳神経疾患		
2	筋骨格系疾患 整形外科疾患		
3	リハビリテーション		
4	消化器系疾患		
5	呼吸器系疾患		
6	循環器系疾患		
7	泌尿器系疾患		
8	繁殖・生殖器系疾患		
9	皮膚科疾患		
10	眼科疾患		
11	血液疾患		
12	内分泌系疾患		
13	感染性疾患		
14	寄生虫疾患		
15	担がん動物		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正当等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

科目名	動物疾病看護学Ⅳ		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	竹原 晶代 (非常勤講師)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
犬猫の疾病について正しく理解し、看護やケアの方法をわかりやすく説明できるようにする。			
回/週	講義概要		
1	犬の疾病に関するポスターの製作(疾病について調べどのような病気・症状なのか理解する)		
2	犬の疾病に関するポスターの製作(看護のポイントをおさえ、ポスターの制作に入る)		
3	犬の疾病に関するポスターの製作(動物看護師が留意すべき点について把握する)		
4	犬の疾病に関するポスターの製作(疾病について説明出来るようにする)		
5	犬の疾病に関するポスターの製作(レイアウト等、見やすいポスターの完成を目指す)		
6	猫の疾病に関するポスターの製作(疾病について調べどのような病気・症状なのか理解する)		
7	猫の疾病に関するポスターの製作(看護のポイントをおさえ、ポスターの制作に入る)		
8	猫の疾病に関するポスターの製作(動物看護師が留意すべき点について把握する)		
9	猫の疾病に関するポスターの製作(疾病について説明出来るようにする)		
10	猫の疾病に関するポスターの製作(レイアウト等、見やすいポスターの完成を目指す)		
11	投薬や皮下注射の方法など看護やケアの、オーナーに向けたパンフレット等の制作(グループワーク制作、パンフレット等の制作に入る)		
12	投薬や皮下注射の方法など看護やケアの、オーナーに向けたパンフレット等の制作(投在宅で行う場合にオーナーへ正しく手技を説明出来るようにする)		
13	投薬や皮下注射の方法など看護やケアの、オーナーに向けたパンフレット等の制作(写真・イラストの使用)		
14	投薬や皮下注射の方法など看護やケアの、オーナーに向けたパンフレット等の制作(医療品の取り扱いに関する注意点なども上げておく)		
15	投薬や皮下注射の方法など看護やケアの、オーナーに向けたパンフレット等の制作(レイアウト等、見やすいポスターの完成を目指す)		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	%	製作物により評価する	
授業参加度:	100 %		
出席 :	0 %		
履修上の注意事項			

科目名	動物医療関係法規		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	三浦 希（非常勤講師）		
教室番号	232または233	開講数	15
使用教材	配布プリント等		
授業の内容及び方法・目的 動物看護師として職業上必要となる関連法規の知識を身につけ、看護師試験の対策を行うと共に、卒業後の実務に生かす。			
週	講義概要		
1	総論（法の基礎知識）		
2	"（各分野・領域に関する法規/演習問題・試験対策問題）		
3	各論 獣医事行政法規（獣医療法/演習問題・試験対策問題）		
4	各論 "（獣医師法）		
5	家畜衛生行政法規（家畜伝染病予防法）		
6	"（愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律）		
7	"（その他の関連する法律/演習問題・試験対策問題）		
8	公衆衛生行政法規（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）		
9	"（狂犬病予防法、身体障害者補助犬法）		
10	"（その他の関連する法律/演習問題・試験対策問題）		
11	薬事行政法規（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）		
12	"（その他の関連する法律/演習問題・試験対策問題）		
13	環境行政関連法規（動物愛護及び管理に関する法律）		
14	"（外来生物法、種の保存法、鳥獣保護法、ワシントン条約、ラムサール条約）		
15	"（廃棄物処理法/演習問題・試験対策問題）		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験：	60%	筆記試験（プリント等の持ち込み無し）	
授業参加度：	25%		
出席：	15%		
履修上の注意事項	講義時間内に、おおよそ一区切りごとに確認問題を配付する。回答時間を設けた後、適宜指名して回答してもらい、その後解答と解説を行う、もしくは宿題として次の講義で提出してもらい、採点して返却する。講義中の質疑等に加えて学修状況として評価の対象となる。		

科目名	公衆衛生学		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏 (学科教員)		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。			
回/週	講義概要		
1	公衆衛生総論		
2	環境衛生		
3	食品の衛生		
4	食中毒対策		
5	食品衛生法		
6	規格・基準		
7	人獣共通感染症：感染症の分類		
8	人獣共通感染症：世界での分布		
9	人獣共通感染症：感染経路		
10	人獣共通感染症：法律		
11	人獣共通感染症：狂犬病		
12	人獣共通感染症：対策法		
13	人獣共通感染症：予防		
14	疫学		
15	薬剤耐性		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験：	60%	筆記試験	
授業参加度：	25%		
出席：	15%		
履修上の注意事項	授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。正当不正当等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。		

＜平成31年度 動物看護・ペット学科 シラバス＞

科目名	臨床動物看護学Ⅲ	学年 コース	動物看護師専攻2年
講師名	今木康彦	開講コマ数	自由選択15コマ(1単位)
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(テレビ)【 <u>ほぼ毎回</u> 】【時々】		
モバイル機器の使用	【 <u>可</u> 】	【不可】	【指示のあった時のみ使用可】
教科目標	動物の疾病ごとの看護について、動物看護過程をふまえ動物看護方法を学ぶ。		
講義内容	1	消化器系疾患の看護①	
	2	消化器系疾患の看護②	
	3	消化器系疾患の看護③	
	4	内分泌系疾患の看護①	
	5	内分泌系疾患の看護②	
	6	内分泌系疾患の看護③	
	7	脳神経系疾患の看護	
	8	筋骨格系疾患の看護	
	9	リハビリテーション	
	10	繁殖・生殖器系・新生子疾患の看護	
	11	眼科疾患の看護	
	12	皮膚疾患の看護	
	13	感染性疾患、寄生虫疾患の看護	
	14	担がん動物の看護	
	15	若齢動物、高齢動物の看護	
理解度の把握	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の理解度を確認するための小テストを適宜実施する。 ○授業全体の理解度の評価は定期試験とする。 		
学生との共通認識事項	<ul style="list-style-type: none"> ○板書による説明だけに留まらず動画も活用して授業を進めていくこととする。 ○授業中に分からないときにモバイル機器による検索を許可します。 		

科目名	幼齢動物・高齢動物管理		
科目区分	自由選択 2年動物看護師専攻	単位数	1
担当教員	門田 英敏		
教室番号		開講数	15
使用教材			
授業の内容及び方法・目的			
<p>抵抗力の低い幼齢期および高齢期に注意すべきことを理解する。 しつけや社会化との連続性を理解する。 最も長い高齢期における飼主と動物との関わりを考察できる。</p>			
講義概要			
1	子犬子猫の健康管理		
2	子犬のワクチン		
3	子猫のワクチン		
4	子犬の食餌		
5	コミュニケーションと社会的刺激		
6	子犬・子猫の飼育管理		
7	老犬老猫の機能変化		
8	高齢動物の看護		
9	シニア期の飼育管理		
10	認知障害の改善		
11	動物医療グリーフケア		
12	ターミナルケア		
13	QOL		
14	安楽死		
15	動物の死の取り扱い		
成績評価の方法		定期試験の方法	
定期試験:	60%	筆記試験	
授業参加度:	25%		
出席 :	15%		
履修上の注意事項	<p>授業参加度は質疑応答、小テスト、提出物等による。 正当不正当等に関わらず、積極性を発揮する行為に対して評価する。</p>		